高崎の山車

高崎の山車は、享保二年（一七一七）頼政神社の祭典から記録にみえ、それが明治二年（一八六九）ごろまで続き、その時は、飾り屋台と言われたもので、明治二年には二十四台ありました。

明治維新により、頼政神社の祭りがすたれ、せまい屋台小路を通る必要もなくなり、それ以後、二段の櫓を組み、迫りがつき、梶取りのついた大型の山車がつくられましたが、やがて市内に電車が走り、電線が張られると大型の山車は運行できなくなり、他町へ売られてしまいました。そして再び明治末、大正、昭和の初期にかけ、数多く小型の山車がつくられました。本町一丁目の例でみても、一台目が明治五年（倉賀野町へ売却）、二台目が大正十年（田町へ売却）、三台目が昭和三年につくられた現在の山車で、江戸期の飾り屋台を入れると少なくても四台以上の山車がつくられてきたことがわかります。現在まで三百年の歴史を有し、高山祭や川越まつりなどの山車とほぼ同じ歴史を誇ります。

山車といえば、笛、太鼓のお囃子です。高崎のお囃子は「神田ばやし」の影響をうけているわけですが、曲名は同じでも相当違っています。おそらく、江戸祭りのお囃子と在来のお囃子が時の経還とともに融合し、そして変化していって現在のようになったと思われます。しかし、高崎のお囃子は山車巡行に良く合った自慢できるお囃子です。そして、各町内がそれぞれ囃子組を持ち、子供達が太鼓を叩くのも他の祭りにみられない特色です。

戦後は長谷川流と、元は同じ秀山流との二大流派に大別され、競い合っています。秀山流は竹笛を使い調子が高いこと、曲のメロディが少し違うということですが、基本的には同じ曲調だと云えます。

何といっても**最大の特長は、三十八台の山車保有台数**です。これだけの台数の江戸型の山車を持っているところは全国どこにもみあたりません。**日本一**です。近年の主な山車巡行を見ても、大正四年即位御大典に二十七台、同じく昭和三年御大典に二十七台、戦後二十四年市制五十周年に二十一台、三十年高崎まつりに二十六台、三十六年市制六十周年三十五台、四十五年七十周年三十四台、五十五年八十周年三十四台と多数の山車が出場し、その様子は実に壮観でした。

最近は昭和五十年から始まった高崎ふるさと祭りから、高崎まつりへと変わった六十年以降、平成二年九十周年には、全三十六台の山車が出場しました。平成十二年百周年、平成二十二年百十周年には、全三十八台の山車が出場しました。平年は、輪番制により約半数が出場しています。今年は、北地区、中央地区から十六台の山車が集結します。

高崎の山車巡行は、その規模、内容において関東一と言えます。どうか、豪華絢爛、華やかな山車巡行をご覧下さい。

交通規制のご案内

交通規制時間

8月3日(土) 14:30〜22:00
8月4日(日) 14:30〜21:00

[当日]高崎警察署警備本部 **TEL 027-329-6336**

- 山車の巡行により一時的な交通規制になる場合がありますのでご協力ください。
- 当日は非常に混雑が予想されますので、バス・タクシー・電車をご利用ください。

主催：高崎山車まつり実行委員会
事務局/高崎市高松町35-1 高崎市役所観光課
TEL 027-321-1257

高崎山車まつり祭典事務所
高崎市田町74-2
TEL 027-321-0073

高崎まつりのTV放送
群馬テレビ 祭りシリーズ 高崎まつり
8月20日(火) 19:00〜20:00
再 8月27日(火) 15:30〜16:30